

株式会社藤里開発公社の経営状況について

株式会社藤里開発公社の経営状況について、6月議会定例会で報告したので公表いたします。

令和元年度藤里開発公社部門別損益計算書 (H31.4～R2.3)

(単位：千円)

科 目	ホ テ ル	健康保養館	加工センター	白神山水 生産販売	本 部	合 計
売 上	70,999	27,013	24,016	75,729	0	197,757
加 工 手 数 料	0	0	10,396	0	0	10,396
指 定 管 理 料	0	20,686	5,221	14,646	0	40,553
売 上 計	70,999	47,699	39,633	90,375	0	248,706
期 首 在 庫	765	328	4,586	4,484	0	10,163
当 期 仕 入	23,641	5,967	10,876	21,078	0	61,562
期 末 在 庫	911	430	4,637	5,765	0	11,743
売 上 原 価	23,495	5,865	10,825	19,797	0	59,982
売 上 総 利 益	47,504	41,834	28,808	70,578	0	188,724
一 般 管 理 費	89,092	52,159	25,730	60,807	15,626	243,414
営 業 利 益	△41,588	△10,325	3,078	9,771	△15,626	△54,690
営 業 外 収 入	31,356	1,257	2	2,644	16	35,275
営 業 外 費 用	3,879	0	0	0	0	3,879
経 常 利 益	△14,111	△9,068	3,080	12,415	△15,610	△23,294
税引前当期純利益	△14,111	△9,068	3,080	12,415	△15,610	△23,294
法 人 税 等	0	0	0	0	301	301
当 期 純 利 益	△14,111	△9,068	3,080	12,415	△15,911	△23,595

※6月議会定例会で報告した資料を編集して作成しています。

●ホテル（売上高70,999千円、前年度比92.1%、6,110千円減）

元年度当初は、登山関係の団体旅行や団体研修視察の宿泊があり前半3ヶ月は売り上げ増となりました。しかし夏から秋にかけては、台風による団体客のキャンセルなどがあり前年を下回る月が多くなりました。また新型コロナウイルスの発生により3月の大きな宴会、県外からの宿泊がキャンセルとなり、前年比6,110千円の減となりました。

●健康保養館（売上高27,013千円、前年度比96.9%、871千円減）

利用人数の増加策として、ホテルの宴会とセットにした「日帰り宴会プラン」の販売拡大やカラオケプランの販売、ポイントカードの実施などで集客に努めましたが、年明けの新型コロナウイルスの影響などにより、前年比871千円の減となりました。

●加工センター（売上高34,412千円、前年度比102.7%、900千円増）

「山芋皮むき」事業が委託元の受託数量が増えたことで増収となりましたが、「白神ラム」を含む「食肉売上」は減収となりました。全体では「ヨモギ、笹の葉」の一次加工本格生産を開始したこともあり、前年比900千円の増となりました。

●白神山水生産販売（売上高75,729千円、前年度比80.1%、18,766千円減）

減収の主な要因は、全国的に、特に関東地方の記録的な冷夏により、水分補給の需要の減少があったことがあげられます。梅雨明け後、一時的に回復しましたが期間が短かったため需要の回復ができず、前年比18,766千円の減となりました。

<指定管理料について>

開発公社の運営5部門のうち、健康保養館（共同福祉施設を含む）・加工センター・白神山水の館は町有施設であり、町は開発公社と指定管理協定を結び、管理運営を委託しております。健康保養館は、低料金で町民等の健康増進を図るもので、加工センター及び白神山水の館は、特産品開発や資源を活用した地場産業の振興を目的として運営されております。

これらの施設の維持管理には、保守料や維持修繕費、水道光熱水費や管理のための人件費が掛かるため、町では、施設の健全な運営が図られるよう、こうした維持管理費に要する経費の1/2相当と人件費の一部について、一定のルールにより指定管理料として支払っております。

こうしたことから、指定管理料は赤字・黒字で増減するものではなく、年度当初に契約した協定に定める金額を基準として支払いしており、計画目標により売上げを伸ばして黒字化を目指すこととしています。